

資料3 保存方法比較表

活用方法	校舎東側3スパンを保存	校舎西側3スパンを解体	校舎東側2スパン・西側3スパン解体
保存方法の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・門脇小の被害の特徴である火災元の東側3スパンのみとし、保存箇所を最小限に抑えて活用する。 ・見学方法は、建物の耐震性や消防との兼ね合いを考慮し、外部からの見学とし、内部空間を被災時のまま保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保存する箇所として、地震、津波、火災の各被災状況が分かること、門脇小学校は火災被害が特徴的であり、特に東側は火災被害が甚大であったことを考慮して解体を校舎西側3スパンのみとし、必要な箇所を保存する。 ・見学方法は、建物の耐震性や消防との兼ね合いを考慮し、外部からの見学とし、内部空間を被災時のまま保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保存する箇所として、地震、津波、火災の各被災状況が分かること、校舎周辺の地域住民に対する圧迫感を考慮して、校舎東側2スパン・西側3スパンを解体する。 ・見学方法は、建物の耐震性や消防との兼ね合いを考慮し、外部からの見学とし、内部空間を被災時のまま保存する。
保存方法のポイント	規模が小さいため、地域住民への圧迫感は少ない	保存面積が大きく、保存部分（東側）が新しく建設される住宅と近接するため、地域住民への圧迫感が懸念される。	校舎の両側を解体し、保存箇所を敷地中央にすることで、校舎東側に建てる住宅に対して、圧迫感を軽減させることができる。
	保存部分（東側）が新しく建設される住宅と近接するため、圧迫感を与える恐れがある。	—	—
	グラウンドの面積が広がるため、駐車スペースなどに利用することができる。	—	—
	規模が小さいため、施設管理の面において容易になる。	施設規模が一番大きいこと、火災被害が大きい場所を保存しているため、維持管理費等がかさむ可能性が高い。	—
遺構の伝え方	被害の特徴である火災元を見せることができる。	被害の特徴である火災元を見せることができる。	火災被害は残すことはできるが、火災元を見せることはできない。
	保存箇所は火災被害が多くを占めるため、火災の燃え広がりが方や津波被害、大きな被害がなかった教室などについては、見せることができない。	地震、津波、火災の3つの被害の被害を伝えることができる。 被災した教室と大きな被害がなかった教室の両方を残すことができ、被害の大きさを比べることができる。	地震、津波、火災の3つの被害の被害を伝えることができる。 被災した教室と大きな被害がなかった教室の両方を残すことができ、被害の大きさを比べることができる。
	校舎の西側を解体するため、日和山公園への避難経路を残すことができない。	校舎の西側を保存するため、日和山公園への避難経路も残すことができ、建物だけでなく、ソフト面の情報も伝えることができる。	校舎の西側を保存するため、日和山公園への避難経路も残すことができ、建物だけでなく、ソフト面の情報も伝えることができる。
平面図			
概算費用	耐震診断費：約 8,800 千円・・・①	耐震診断費：約 8,800 千円・・・①	耐震診断費：約 8,800 千円・・・①
	初期整備費：約 683,943 千円・・・②	初期整備費：約 810,238 千円・・・②	初期整備費：約 746,966 千円・・・②
	初期経費計：約 692,743 千円・・・①+②	初期経費計：約 819,038 千円・・・①+②	初期経費計：約 755,766 千円・・・①+②
	維持管理経費：約 12,350 千円・・・③	維持管理経費：約 17,850 千円・・・③	維持管理経費：約 16,350 千円・・・③
	長期修繕費：約 6,300 千円・・・④ (建物本体の修繕は10年毎に実施)	長期修繕費：約 10,100 千円・・・④ (建物本体の修繕は10年毎に実施)	長期修繕費：約 8,250 千円・・・④ (建物本体の修繕は10年毎に実施)
	維持管理費等計：約 18,650 千円・・・③+④	維持管理費等計：約 27,950 千円・・・③+④	維持管理費等計：約 24,550 千円・・・③+④
注：耐震補強費・保存処理費は耐震診断調査を実施しなければ積算できないため、上記には含まれていない。			